

ホーム名：グループホームサンシャイン					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を策定して事務所に掲示し、来所者への周知、また、職員会議で各職員への周知を図っている。	「入居者様と生活を楽しみ礼節のある対応を行います」を理念とし、玄関や事務所に提示している。職員会議や日々のミーティングで、言葉遣いや姿勢等を振り返っている。	事業所の理念が口で言えてこそ具体的な実践へと繋がる。職員一同再認識し、更なる理念の実践へと努力されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（敬老大会、盆踊りなど）や地域団体主催による、ふれあい喫茶に参加。また、ホーム行事にも地域のボランティアに参加していただいている。	入居者が各々自治会員となっており、地域の行事（盆踊り・老人会など）に参加している。その折には地域のボランティアの手を借りて楽しんでいる。2ヶ月に1度、ボランティアグループ「葦の会」が来訪し、音楽等を通じ交流を楽しんでいる。	地域のボランティアの方々とは顔なじみになり、入居者の名前も覚えて下さる様になったとの事。今後も地域とつながりを持ちながら、交流を深めていかれたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別機会は設けていないが、地域の方と交流する機会は作れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム行事、事故報告、研修等を発表し、いただいた意見でサービスの向上に活かしている。また、地域の情報を出席者から得てホームの取り組みに活かしている。	地域社会福祉協議会長・地区連合振興町会長・老人クラブ連合会長・地区民生委員・地域包括支援センター職員・家族を運営推進委員のメンバーとして、2ヶ月に1度開催している。行事報告・事故報告等を議題としている。	地域振興（貢献）の一助と成るべく、会議は地域の会館にて使用料を払い行っている。今後は家族への出席の呼びかけ（会議録の送付含む）と、議事録の充実（書記の専任等）を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	必要に応じ、区役所担当者と連絡を取り合っている。また、運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者にも参加してもらっている。	近々での相談事例は無いが、その時々で区担当者と連絡や相談を行える関係にある。運営推進会議録は、1年分まとめて市へ提出している。	“事業所は介護保険の現場である”という認識で、行政の担当者へも運営推進会議への出席を呼びかけてみられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	サービス基準を正しく理解し、入居者の安全を守るうえで必要最低限の対応を行っている。外部研修にも参加し、参加した職員が職員会議で報告し全職員に周知している。	身体拘束に直接結び付く事例は無い。外部研修や勉強会等で学び、職員は学んだ事を共有出来ている。玄関ドアは外側からは入れるが、内側からは開かない様ロックされている。	玄関の施錠も広義的には禁止の対象になる。全職員がそれらを含め正しく理解し認識を深める様、勉強会等で取り組んで頂きたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、職員会議を利用し、啓発している。また、ニュース、新聞などで取り上げられた事例は、その都度注意を喚起している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は、学ぶ機会が作れていない。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、ご本人、ご家族に説明を行い、理解、納得されたうえで契約し入居いただいている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に、2ヶ所意見箱の設置をしている。</p>	<p>家族の来訪が少なくなり、電話での報告時を利用して意見や要望等を伺っている。衣替えでみえる家族にはその折に直接伺っている。</p>	<p>“お任せする”という家族の言葉はホームに全信頼を寄せているという様にも取れるが、利用者・家族の意見や要望が伝わってこそホームの充実に繋がる。機会を捉え利用者・家族の希望等を引き出し、“共にホームを作っていく”と言う気持ちで運営に反映させていって頂きたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者が個別に意見を求める場を設けたり、職員会議の場で意見を聞くことを行っている。</p>	<p>管理者は定期的に職員への声かけを行っている。菓のチェック体制を整える・クッキングデーを設ける・尿パッドの種類を替える・屋上での野菜栽培・リーダー制導入等、提案から取り入れてきた。</p>	<p>管理者の気さくな人柄で今後も職員間でコミュニケーションを図り、より充実したホーム作りを目指していかれたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員の要望を聞き入れ、できる限り個々の状況に応じ対応している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への職員の参加を勧め、そこで習得した知識、情報等を職員会議で発表し、内部研修している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワーク及び東淀川区GH連絡会に参加し、様々なGHの実情を研究し、事業に反映させている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの要望等には、初回面談時に確認している。また、入居後もできる限り傾聴し、本人の要望を聞くように心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様とも、できる限りコミュニケーションをはかり、入居者が安心して過ごせるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>各福祉事業所や医療とも連携しながら、また、必要であれば地域包括センターへの相談も行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒にゲームをしたり、クッキングをしたり、屋上菜園を行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホームから毎月、ご家族へたより（写真つき）を送り、近況報告を行っている。必要に応じて、電話連絡している時もある。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居後もできる限り、馴染みの物や環境を継続できるように、努力している。また介護計画にも反映している。</p>	<p>“誕生日外出”を利用して、生まれ育った地に行き懐かしの食べ物を食したり、墓参りに行くなど、馴染みの物や場所への関係を継続する支援に努めている。</p>	<p>個人の希望する場所への“誕生日外出”支援は、過去の思い出を語ったり懐かしんだりしながら記憶を呼び覚ます入居者と職員の楽しいひと時であろうと推察する。今後も継続して頂きたい支援である。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者各人の性格、病状を把握したうえで、各入居者が孤立しない様に職員が間に入り支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて対応している。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望は出来る限り対応し、訴えることが困難な方は、定期的に聞き取りを行い、意向を伺うなど、希望、意向の把握に努めている。	会話を大切にしている。言葉で表せない入居者が多いが、目線を合わせ身体に触れ合うなどしながら表情で推測している。職員には入所時のアセスメントで生活歴の情報を伝え、共有している。	職員も穏やかに入居者と接しており、丁寧に会話をしておられた。入居者の思いや希望を、焦る事無く穏やかな態度で把握する努力を今後も続けていって欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前に必ず家庭訪問し、生活環境、サービス利用等の把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、担当を決め、介護記録の整備を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、主治医を交えてのケア会議は開催できていないが、それぞれに意見を伺い、ホーム内でのケア会議で介護計画の内容に活かしている。 モニタリングは毎月行っている。	サービス担当者会議には所長・主任・職員が出席し、意見を出し合い半年ごとに介護計画を作成している。かかりつけ医経営のディサービスでの支援記録も参考にしている。	週1回、7名の方が医療保険を使い清水クリニックのデイケアに通っている。連携を図り、各人に適した生活・活動目標の設定で生き活きとした暮らしが継続出来るよう、介護計画の作成および支援をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は担当者を決め、行っている。特記事項は申し送りを随時行っている。介護方法について職員会議でも検討し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、アセスメントを行い、その入居者にあった支援ができるように、心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議などを通じ地域資源の把握、活用は、可能な範囲で、できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居者、ご家族のご希望の主治医で継続治療できるように、連携を取り、継続した支援を行っている。	現在は入居者全員の主治医が、協力医である清水クリニックとなっており、月2回の往診と、往診の無い週の訪問看護、他に訪問歯科、眼科、マッサージ施術等により健康管理の支援を行っている。	容態急変時は、家族には電話で連絡し、普段は毎月発行の「サンシャイン便り」でケアマネジャーから報告している。入居者の身体状況が、家族に届くような「便り」の発行に期待している。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム内には看護師はいないが、週2回の訪問看護で看護師の来所があり、緊急時は連絡相談できるように連携が取れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院関係者との情報交換については、嘱託医とともに、連携が取れている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化時の対応については、指針を作成しており、契約時に説明を行っている。</p>	<p>重度化した場合の対応については、当事業所における「対応指針」を定めており、「看取りに関しては、終末期介護を前提としていない。」と明記している。契約時には本人・家族に対して説明を行い、納得の上「同意書」を得ている。</p>	<p>急性期には、24時間オンコール体制を活用して提携医の指示を仰ぎ、必要時には救急搬送を行う。長期入院の場合、居室の確保は14日間となっている。退院後の受け入れ先については、これまで通り最大限の支援をお願いしたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員へは日頃から事故発生時の対応について、朝礼、職員会議を利用し、周知しているが、特に訓練をしていないので、十分とは言えない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>十分な避難訓練や、地域との連携は築けていない。</p>	<p>避難訓練は出来なかったが、今秋には消防署立ち会いの下、1階と合同で訓練を行う予定である。煙・熱感知器と、スプリンクラーが各部屋に設置しており、それらが作動すると、一時避難場所に通じている非常口が自動開錠され、入居者を避難誘導することになっている。</p>	<p>カーテンや壁面のクロス、天井は不燃素材を使用し、各階に消火器を設置している。緊急時に備え、普段から廊下等の共用場所の整理を心がけ、消火器の使用法や津波時の避難場所の確認、簡易トイレや携帯コンロ等必要と思われる備蓄品の拡充をされるよう望む。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格を尊重し、言葉がけを適切に行えるように心がけているが、十分とは言えない。</p>	<p>仲良くし過ぎるあまり、馴れ馴れしい言葉にならない様心がけている。管理者は府社会福祉施設人権活動推進協議会主催の「障がい者・高齢者の自立・社会参加と事業者の役割」について受講している。</p>	<p>管理者は「高齢者の尊厳や生き甲斐、自己実現」についての研修を受講された。外部研修の受講者は、その内容を内部研修に活用しているが、今後も職員全体で共有出来るように努めて頂きたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>様々な生活場面で、自己決定ができる様に働きかけ、勧めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>無理強いせず、本人のペースで過ごして頂けている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>出来る限り、服装、身だしなみは、本人の意向を聞いているが、おしゃれができるほど、衣類が多くないのが実情。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月に一度の、「ザ・クッキングデイ」で食事づくりから片付けまで参加して頂けている。日々の食事では、一部の入居者が参加している。</p>	<p>ご飯(粥)と味噌汁、パンメニューの朝食は事業所で作っているが、昼・夕食は「まごころ工房」より冷蔵品で届けられている。「ザ・クッキングデイ」には、入居者の希望を聞いて食材の買い物に出かけ、一緒に準備や食事をしている。</p>	<p>食事中は、昔懐かしい曲が流れて落ち着いた雰囲気である。又、食事前には指折り・足踏み体操や、パピペポ体操等を行い、食欲増進と嚥下機能の維持向上に努めている。何時までも経口摂取が出来るような支援の継続を望む。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量は日々チェックを行い、状態を把握している。主治医から指示が出ている方に関しては、その方に応じた支援を行う。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、職員がチェック、介助を行い、また、1週間に1回の訪問歯科の往診を受け、口腔指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失禁、失敗をできる限り防ぐ為、本人尿意、便意訴え時はもちろんの事、訴えることが困難な方は個別でタイミングを図り、トイレへ誘導している。</p>	<p>排泄チェック表に基づき、一人ひとりに対応したトイレ誘導を行っている。尿意の無い人は表情や、様子を観察することで誘導し、便秘対応としては、緩下剤の使用や腹部マッサージも行っている。</p>	<p>自然な排泄が出来るように、ヨーグルト等の水分や、繊維の摂取と散歩を心がけている。排泄の自立は、生きる意欲と自信の回復に繋がるので、今後も自立に向けた個別支援を継続して頂きたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>出来る限り多めに水分補給を勧める、また、散歩、体操などを行っている。おやつなどでも繊維質のあるものを出すこともあり。場合によって、腹部マッサージを行う時もある。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日、時間はこちらで決めているが、その中で本人の希望を聞いている。</p>	<p>毎週火・木・土曜日の午後1時半から、一人平均20分程度で入浴している。身体状況により入浴出来ない人には清拭を、不眠の人には足浴をして、良眠出来るよう支援している。希望者には同性介助を行っている。</p>	<p>入浴の曜日、時間は予め決まっているが、その中で本人の希望も聞いている。これからも本人の生活習慣や希望に合わせた柔軟な支援を続けて欲しい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者の状態を把握し、昼夜逆転をしないよう、昼寝などに対応している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>主治医からの指導に基づき、薬について理解し、服薬の支援を行っている。誤薬が無いよう様、随時チェックを行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメントで生活歴、習慣を把握し、入居後も継続して行えるように支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>誕生日外出を企画し、年に1回、本人の希望のところへ職員付き添いのもと、外出している。他にも、買い物、散歩などできる限り希望に添えるように支援している。</p>	<p>日常的には竹間公園や淀川散歩、買い物等で戸外に出かけられるよう支援している。週1回のデイケアや、ふれあい喫茶に参加したり、誕生日外出で、墓参や咲くやこの花館、スーパー銭湯、回転寿司等本人の希望する所に出かけている。</p>	<p>月2回「老人憩いの家」で開かれるふれあい喫茶は、カレーやお汁粉、コーヒー等が全て100円で提供され、入居者は楽しんで出かけている。これからも行きたい所へ気軽に出掛けられる様、個別外出を続けて欲しい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本にお金は所持されていないが、一部の方は小銭を持っている方がおられ、その方の小銭については、必要に応じて本人が使用している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば行う検討をするが、現在希望される方はいらっしやらない。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>快適な居住空間を得られるように、常に気配りし、気になるところがあれば、早急に手当を行うようにしている。季節感が出るような雰囲気作りにも心がけている。</p>	<p>共用の空間は、落ち着いたパージュの色調に統一され、温・湿度とも快適に過ごせるよう配慮されている。食卓に飾られた1輪の向日葵や、壁際の七夕飾り、窓のブラインド越しに見えるゴーヤの葉陰に、入居者は季節を感じる事が出来る。</p>	<p>屋上では、プランターで朝顔やグラジオラス、トマトやゴーヤが栽培され、入居者は水やりや収穫を楽しんでいる。土の量を増やしたり、コンクリートの暑さが直接プランターに伝わらないような工夫により、元気に成長する植物を楽しんで頂きたいものである。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでは入居者同士で過ごせ、居室に戻れば、独りになれる空間が確保できている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みのある物を置き、居心地よく過ごして頂けるように、工夫している。</p>	<p>壁面にはカレンダーや時計の他、書初めの書や、貼り絵、塗り絵等の自作品が飾られている。各人の趣味と必要に応じて、猫の縫いぐるみやテレビ等を置き、居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>洗濯干しが好きな入居者の部屋の前には、ワイヤー式の小さな物干しを置き、タオルを干したり畳んだりすることを日課として過ごせるよう支援している。通行の妨げにならない様、物干しの片付けもお願いして頂きたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーであり。各所に手すりが付いている。各居室にはネームを貼り、トイレに表示をしたりしてわかりやすくしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない